

銀行の不良債権およびその処理にかかる ディスクロージャーの日米比較（資料）

考 査 局
信 用 機 構 室
ニューヨーク事務所

I. はじめに

日本においても、米国においても、銀行はその経営内容を投資家、預金者等に対して開示している。しかし、開示（ディスクロージャー）の仕組みと運用の実際については、両国の間に違いが見られる。本資料は、不良債権およびその処理に関して、両国の開示を比較したものである（注1）。

本資料では、開示主体の創意工夫が端的な形であらわれる余地の大きい「ディスクロージャー誌」による一般向けディスクロージャーを主に比較の対象とする（注2）。

本資料の構成は次の通りである。まず、日米両国毎に銀行（注3）にかかるディスクロージャーの仕組みを概説し、その仕組みにおいて不良債権およびその処理に関し求められている開示内

容を解説する。次いで、実際に米銀および邦銀が具体的にどのように不良債権およびその処理にかかる開示を行っているかを例示する。最後に日米両国の相違点を要約する。

II. 米国

1. ディスクロージャーの仕組み

（1）基準

米銀のディスクロージャー誌に記載される不良債権およびその処理の開示についての規範としては、証券取引委員会（Securities and Exchange Commission <SEC>）が定める基準と米国の会計基準中のディスクロージャーにかかる定め、が基本となる。

（注1）我が国における公表不良債権の金額、自己査定上の分類資産と公表不良債権との対応関係、償却・引当との関係については、「全国銀行の平成9年度決算」（日本銀行調査月報98年8月号）を参照されたい。

（注2）日本におけるいわゆる「ディスクロージャー誌」は、投資家および債権者に直接開示される点で、「有価証券報告書」（証券取引法第24条に基づき有価証券の発行者である会社が大蔵大臣に提出し、同法第25条に基づき大蔵大臣は、それを公衆の縦覧に供しなければならない。）と異なる。一方、米国においては、年次報告書には、投資家等に向けた年次報告書（annual report、以下「ディスクロージャー誌」という。）とSECに提出する年次報告書（Form10-K）がある（銀行によっては、Form10-Kそのものを「ディスクロージャー誌」としている先もある）。Form10-Kは、一義的には、投資家等に直接向けた年次報告書ではなく、SEC宛に提出するもの（日本の有価証券報告書に相当）で、SECが提出された内容を開示している（もっとも、各行のホームページでは投資家等に直接向けた年次報告書とForm10-Kが共に掲載されていることが多い）。本資料では、各行の開示についての考え方が端的に表われる投資家等に直接向けた年次報告書を中心に取上げていく。

（注3）米国では、連結決算ベース計数が主に議論の対象となることから、年次報告書でも、銀行単体ではなく銀行持株会社のベースで不良債権およびその処理の実態が示されている。

＜SEC基準＞

ディスクロージャー誌の開示の枠組みに関しては、国法銀行（連邦が銀行免許を与える銀行）については通貨監督庁（Office of the Comptroller of the Currency＜OCC＞）が定める連邦規則（Disclosure of Financial and Other Information by National Banks＜12CFR § 18.1, § 18.5＞）が、一方、州法銀行（州が銀行免許を与える銀行）のうち連邦準備制度加盟行については連邦準備制度理事会（Federal Reserve Board＜FRB＞）が定める連邦規則（Regulation H＜12CFR § 208.17＞）が、それぞれ年次（開示）報告書（annual disclosure statement）を公衆に供する義務を課している。また、これら連邦規則は、年次（開示）報告書の内容につき、原則としてコールレポート（銀行が当局宛に報告を義務付けられる財務内容にかかる報告書）の作成要領により作成したものによると規定しているが、銀行が銀行持株会社の一定の条件を満たす子会社である場合には、SECに提出される年次報告書（Form10-K）についてSECが定める規則に従って作成された持株会社の年次報告書を代わりに用いることができる（Alternative annual disclosure statement）旨規定している。

一方、SECは、その定める連邦規則（Regulation S-K, Item 801, 802）に基づいてSECに提出される年次報告書に記載する内

容に関して、産業毎にディスクロージャーの基準を定めている。その基準（United States Securities and Exchange Commission, Industry Guides: Guide 3 “Statistical Disclosure by Bank Holding Companies”＜以下、「SEC基準」という。＞）では、銀行持株会社のディスクロージャーの内容について定めている。

従って、このSEC基準が、銀行持株会社の傘下にある主要な米銀のディスクロージャーの内容を規律する一つの規範となっている。

なお、上に述べた国法銀行および州法銀行にかかる連邦規則では、前年（1～12月）の年次報告書の開示を翌年3月末迄に行うことを求めている。

＜会計基準＞

米国の会計原則である財務会計基準書（Statement of Financial Accounting Standards＜SFAS＞（注4））第114号（注5）およびその一部を修正した同第118号（注6）は、貸出金の減損（impairment：元金および利息を約定通りに回収できないことが確実で、返済遅延にかかる利息の回収も見込めないことをいう。）の開示について定めている。これは、その実務上の指針を定めた米国公認会計士協会の産業別監査・会計ガイド（Audit and Accounting Guide）の「銀行及び貯蓄組合編」と共にディスクロージャー誌にお

（注4）独立した民間団体である財務会計基準審議会（Financial Accounting Standards Board＜FASB＞）が、発表する基準書で、「一般に認められた会計原則」（GAAP: Generally Accepted Accounting Principles）を構成するものである。

（注5）FASB, Statement of Financial Accounting Standards No.114 “Accounting by Creditors for Impairment of a Loan,” 1993.

（注6）FASB, Statement of Financial Accounting Standards No.118 “Accounting by Creditors for Impairment of a Loan—Income Recognition and Disclosures,” 1994.

ける不良債権および間接償却の開示の基準の一つになっている（注7）。同基準は、不良債権の認識とそれにかかる間接償却による処理を一体のものとして捉えている点に特色がある。

この両者の基準は、以下で述べるように、併せて米銀のディスクロージャーを規定している。そこで、これらの基準につき、より立ち入ってみてみる。

（2）SEC基準

イ．不良債権のディスクロージャーにかかる定め

SEC基準は、そのⅢC．において、

- ・ 未収利息不計上貸出金（Nonaccrual Loans）、延滞貸出金（Past Due Loans）、リストラクチャード貸出金（Restructured Loans）
- ・ 潜在問題貸出金（Potential Problem Loans）、
- ・ 海外向け貸出（手形引受、投資等を含む。）残高
- ・ 貸出の集中

の4項目を金融機関による貸出の“Risk Elements”として規定し、その開示を求めている。このうち、特に本稿と関連のある前2項では以下のようにその内容を定めている（後掲別表1）。

①未収利息不計上貸出金、延滞貸出金、リストラクチャード貸出金として次に該当する金額を各々開示する。

（a）非発生主義（注8）で会計処理した貸出金。

（b）元本または利息の返済が90日以上延滞しているが、発生主義で会計処理している貸出金。

（c）SFAS第15号に定義されている「条件緩和（troubled debt restructuring）」（注9）が行われた貸出金で、上記の項目に含まれないもの。

このうち貸出債権を、（a）非発生主義で会計処理する際の基準についてその考え方を明記すること。

②潜在問題貸出金として、上記①以外の貸出金のうち、経営者として債務

（注7）なお、直接償却については、一般に認められた会計原則の一つである米国公認会計士協会の産業別監査・会計ガイド（Audit and Accounting Guide）の「銀行及び貯蓄組合編」が貸倒損失の見積りにつき規定している。その金額は直接償却額の決定を通じ財務諸表に記載され、開示されることになる。

（注8）会計処理では、収益と費用を発生した時期に認識する方法（発生主義）が原則とされているが、これに対し、例外的に債務者の業況悪化等により約定通りの収入が見込めない場合においては、保守主義の観点から、（未収利息の発生を認識せず）実際の現金の出入りを基準として認識を行う方法がとられ、これを非発生主義という。非発生主義による返済金の会計処理方法には返済金の充当順序に関し、回収金の元利いずれへの充当にも制限がない現金主義（cash basis method）と、元金に優先充当する原価回収法（cost-recovery method）およびその組み合わせがある。

（注9）条件緩和としては、

- （a）債務者からの資産の譲受、
- （b）債務者の株式の引受等、
- （c）以下の条件変更（含むその組み合わせ）：1．約定利子率の引下げ、2．同リスクの新規貸出利率よりも低い利率による期限延長、3．額面金額の減額、4．金利の減免、

および、（a）、（b）、（c）の組み合わせ、が挙げられており、また必ずしもこれらに限定されないことが示されている。（FASB, Statement of Financial Accounting Standards No.15 “Accounting by Debtors and Creditors for Troubled Debt Restructurings,” par. 5）

(別表1)

Securities Act Industry Guides, Statistical Disclosure by Bank Holding Companies (抜粋)

III. C. Risk Elements

1. Nonaccrual, Past Due and Restructured Loans. As of the end of each reported period, state separately the aggregate of loans in each of the following categories:

- (a) Loans accounted for on a nonaccrual basis;
- (b) Accruing loans which are contractually past due 90 days or more as to principal or interest payments; and
- (c) Loans not included above which are "troubled debt restructurings" as defined in Statement of Financial Accounting Standards ("FAS 15"), Accounting by Debtors and Creditors for Troubled Debt Restructurings.

Instructions.

- (1) The information required by this Item should be provided separately for domestic and for foreign loans for each reported period.
- (2) As of the most recent reported period, state separately as to foreign and domestic loans included in (a) and (c) above the following information: (i) the gross interest income that would have been recorded in the period that ended if the loans had been current in accordance with their original terms and had been outstanding throughout the period or since origination, if held for part of the period, and (ii) the amount of interest income on those loans that was included in net income for the period.
- (3) A discussion of the registrant's policy for placing loans on nonaccrual status should be provided.
- (4) 略

2. Potential Problem Loans. As of the end of the most recent reported period, describe the nature and extent of any loans which are not now disclosed pursuant to Item III. C.1. above, but where known information about possible credit problems of borrowers (which are not related to transfer risk inherent in cross-border lending activities) causes management to have serious doubts as to the ability of such borrowers to comply with the present loan payment terms and which may result in disclosure of such loans pursuant to Item III. C.1.

者の信用力に関する既知の情報から見て、その約定履行能力に重大な疑義があると判断される債務者に対する貸出金で、最終的には上記①として開示される可能性がある貸出金もその金額を開示すること、および潜在問題貸出金に該当する債権の具体的内容についても記述すること(注10)。

ロ. 不良債権の処理のディスクロージャーにかかる定め

SEC基準は、不良債権の処理に関し、「貸倒損失の要約」(IV. Summary of Loan Loss Experience)と題する項目を設け、その中で、次の二点につき、開示形式(フォーマット)を例示してディスクロージャーを求めている(別表2)。

(注10) 最近のディスクロージャー誌における開示例は少ない。これは、後述するようにそもそもnonaccrual loansの定義を広くとりpotential problem loansというカテゴリーを包摂しているためディスクロージャー誌に記載することが不要なケースと、米国景気の好調等のため該当する残高がなく、ディスクロージャー誌に記載する必要がないケースとがあるためと考えられる。ただし、ディスクロージャー誌において開示がない場合でも、SEC宛の年次報告書(Form10-K)上は、potential problem loansは原則ゼロと報告されており、SECはこれを対外公表している。

(別表 2)

Securities Act Industry Guides, Statistical Disclosure by Bank Holding Companies (抜粋)

IV. Summary of Loan Loss Experience

A. An analysis of loss experience shall be furnished in the following format for each reported period.

Analysis of the Allowance for Loan Losses	
	Reported period
Balance at the beginning of period (期首貸倒引当金額)	\$ X
Charge-offs: (当期貸倒損失額)	
Domestic:	
Commercial, financial and agricultural	X
Real estate—construction	X
Real estate—mortgage	X
Installment loans to individuals	X
Lease financing	X
Foreign	X
	X
Recoveries: (既償却分の当期回収額)	
Domestic:	
Commercial, financial and agricultural	X
Real estate—construction	X
Real estate—mortgage	X
Installment loans to individuals	X
Lease financing	X
Foreign	X
	X
	X
	X
Net charges-offs (正味貸倒損失額)	X
Additions charge to operations (当期貸倒引当金積増額)	X
Balance at end of period (当期末貸倒引当金額)	X
Ratio of net charge-offs during the period to average loans outstanding during the period	X

Instructions.

- (1) The above table is not intended to mandate a specific format for disclosure of this information. Registrants are encouraged to experiment with various disclosure formats in the interest of effective communication of this data, however, all the required information must be given.
- (2) For each period presented, describe briefly the factors which influenced management's judgment in determining the amount of the additions to the allowance charged to operating expense. A statement that the amount is based on management judgement will not be sufficient.
- (3) If, in accordance with the instructions to paragraph III.A¹, information concerning loans has been presented in categories other than those specified in that paragraph, those other categories should be used to present the disclosures called for under this paragraph.
- (4) If the registrant is required to present separate data as to its foreign activities pursuant to General Instruction 7 to this Guide, disclosure must be provided as to the changes in the allowance for loan losses applicable to loans related to foreign activities, including the balances at the beginning and end of the periods, charge-offs, recoveries, and additions charged to operations.

B. At the end of each reported periods, furnish a breakdown of the allowance for loan losses in the following format:

1 Paragraph III. A. Type of Loans

As of the end of each reported period, present separately the amount of loan in each category listed below. Also show the total amount of all loans for each reported period which amounts should be the same as those shown on the balance sheets.

Domestic:

1. Commercial, financial and agricultural;
2. Real estate—construction;
3. Real estate—mortgage;
4. Installment loans to individuals;
5. Lease financing

Foreign:

6. Governments and official institutions;
7. Banks and other financial institutions;
8. Commercial and industrial;
9. Other loans.

Instruction. A series of categories other than those specified above may be used to present details of loans if considered a more appropriate presentation.

Allocation of the Allowance for Loan Losses		
Balance at End of Period Applicable to:	Reported period	
	Amount	Percent of loans in each category to total loans
Domestic	\$X	X%
Commercial, financial and agricultural	X	X%
Real estate—construction	X	X%
Real estate—mortgage	X	X%
Installment loans to individuals	X	X%
Lease financing	X	X%
Foreign	X	X%
Unallocated	X	N/A
		100%

Instructions.

(1) See instructions (1) and (3) to paragraph A above.

(2) In lieu of the breakdown of the allowance for loan losses by loan category called for above, the registrant may furnish a narrative discussion of the risk elements in the loan portfolio and the factors considered in determining the amount of the allowance for loan losses. The discussion may be extended to risk elements associated with particular loan categories or subcategories. Information should also be furnished as to the approximate anticipated amount of charge-offs by category during the next full year of operation.

①貸倒引当金にかかる分析（Analysis of the Allowance for Loan Losses）

- ・期首貸倒引当金残高、期末貸倒引当金残高、その期中増減要因（ネット償却額〔期中の直接償却＜charge-offs＞額から既償却債権からの回収＜recoveries＞額を減じる〕、および期中貸倒引当金増加

額）（注11）、および期間償却額対貸出残高比率を算出し、内外別、業種別に内訳を示すこと。

②貸倒引当金の積立実績（Allocation of the Allowance for Loan Losses）

- ・内外別、業種別に貸倒引当金残高の内訳を示すこと。

また、ディスクロージャーに当たって次

（注11）貸倒損失処理にかかる経理処理は、次のような関係となっている。

$$\begin{aligned} & \text{期首貸倒引当金残高} - \text{期中直接償却} + \text{既償却債権からの期中回収} + \text{期中貸倒引当金増加額} \\ & = \text{期末貸倒引当金残高} \end{aligned}$$

の3点を指示している。

①開示形式はあくまで例示であり、例示された形式にある項目を必須として、他に銀行はより効果的な開示形式を取り得ること。

②経営陣が期中貸倒引当金の増額を決定するに際し勘案した要因を記述すること。

③貸倒引当金の積立実績については、内外別、業種別の内訳の代わりに、貸出ポートフォリオの抱えるリスク要因についての議論や貸倒引当金額を決定する際に考慮した要因を記述することが認められている。また、さらに翌年中の貸出先毎の概算償却見込額も記述することが推奨されている。

(3) 会計基準

SFAS第114号は、「貸出金の減損」を、

①債権者が、貸出金契約の条件通りに債権の全額を回収することが不可能となる可能性が大きい時に、当該貸出金は減損している(注12)、②返済の遅延、返済額の不足が重要でない場合には減損とは認識しなくともよい、③遅延利息の回収が可能であれば減損していない、と定義している(第8項)。

さらに、条件緩和(リストラクチャリング)がなされた貸出金は、「第8項の要件を既に満たしているから減損と評価される」とされている(第9項)(注13)。

次いで、減損額の測定方法については、貸出債権毎に個別に減損額を測定すること、および当初の実効金利(注14)で割引いた将来のキャッシュフロー額の現在価値(又は担保権実行の可能性が大きいときは担保物件の公正価値)によること、が定められており(第13項)、米国公認会計士協会の産業別監査・会計ガイドの「銀行及び貯蓄組合編」の第7章(Credit Losses)がその実務上の指針を定めている。この中では、個別に債権の価値を評価する大口貸出金と集合的に債権の価値を評価する小口で同質的な貸出金を区分している。

開示については、減損した貸出金の額が、貸出金残高(利息発生額、手数料、費用、未償却分のディスカウント等を含む。)を下回る場合には、債権者は引当金を計上し(第13項)(注15)、次の項目を財務諸表の本体又は注記に開示することを求めている(SFAS第118号第6項i)。

①減損貸出金残高、貸倒引当金のある
減損貸出金残高および引当金残高、
貸倒引当金のない減損貸出金残高

(注12) 債権全体の回収可能性が問題の中心となる点で、SEC基準の未収利息不計上債権とやや観点が異なる。

(注13) SEC基準のリストラクチャード債権は減損貸出金に含まれることになると考えられる。

(注14) 契約上の利率を当該貸出金の貸出時又は取得時に存在した手数料、費用、未償却分のディスカウント等につき修正した比率、とされている(SFAS第114号第14項)。

(注15) なお、直接償却については、米国公認会計士協会の産業別監査・会計ガイドの「銀行及び貯蓄組合編」では、「貸倒損失」の項で、貸倒損失の見積り方法の中核は、「貸出債権の分類過程にある」としている。また、「分類は金融機関の自己査定の仕事に依拠している」と記述されており、自己査定を出発点に債権を分類し、貸倒損失額を確定し、それを財務諸表に反映させ開示する仕組みが示されている。

②減損貸出金の利息にかかる会計処理
方針

③減損貸出金期中平均残高および減損
貸出金にかかる期中受取利息額

2. 米銀のディスクロージャーの実際——97年 年次報告書から

米銀の不良債権およびその処理にかかる実
際のディスクロージャーを以下みていくが、
予め特徴点を述べると以下の通り。

第一に、不良債権の開示については、SEC
基準が、各行に貸出債権を不良債権に分類す
る基準（以下、この基準を「定義」という。）
自体を定める裁量を与えていることから、各
行の定義は多様なものとなっている。すなわ
ち、SEC基準では、未収利息不計上貸出金の
定義を自ら決め、その内容を明記することと
されている。このため、未収利息不計上貸出金
の範囲には各行毎に広狭差がある（注16）（従っ
て、開示対象項目の名称が同じであってもそ
の各行間の単純な比較はできないことになる）。また、商業貸出・消費者ローン、国内向
け・海外向け等不良債権の内外、業種別等の
内訳の開示の仕方も各行の業務内容の違い等
を反映して異なったものとなっている。

第二に、不良債権の処理の開示については、
「開示形式はあくまで例示であり、例示された
形式にある項目を必須として、銀行はより効
果的な開示形式を取る」とのSEC基準の
記述を受け、各行が貸出の相手方の業種別等
の区分を経営の状況に応じて工夫を凝らして
開示している。また、「期中貸倒引当金増加額
の決定に際し経営陣に影響を与えた要因を記
述すること」とのSEC基準の記述を受け、各
行がその要因を挙げているが、この点につい
ては大きな差はみられない。

第三に、SEC基準に準拠した不良債権とは
別に、SFAS第118号に基づき、減損貸出金、
引当金計上減損貸出金およびそれらに見合う
引当金積立額が表示されている。すなわち、
各銀行毎に不良債権の回収可能性にかかる会
計上の認識、測定が直接開示され、不良債権
の残高とそれに見合う引当金額を併せて一覧、
比較できる形となっている。なお、その額は
定義の相違によりSEC基準の不良債権額とは
多少異なることが多い（注17）。

第四に、経営内容に応じた種々の開示上の
工夫が見られる。

1997年の年次報告書から具体例をみると、
以下の通り（後掲別表3）。

（注16）未収利息を資産不計上とする基準は、SFASに定めがない。もっとも、米国の金融機関を監督する機関（FRB、OCC等）へ提出する財務にかかる報告書（コールレポート）の記載要綱（Federal Financial Institutions Examination Council＜金融機関を検査する機関がその手法等を統一するための協議会、FFIEC＞、SCHEDULE RC-N）では、“nonaccrual status”の定義は、（1）it is maintained on a cash basis because of deterioration in the financial condition of the borrower,（2）payment in full of principal or interest is not expected, or（3）principal or interest has been in default for a period of 90 days or more unless the asset is both well secured and in the process of collection. とされており、その大枠の下、各行毎に範囲を定めていると解される。

（注17）nonaccrual loanの定義をimpaired loanと同じとした場合に限り両者は一致する。

(別表 3)

SEC ¹	J.P.Morgan ² (主として ホールセールを営むマ ネーセンターバンク)	Citicorp ³ (グローバルに幅広 いリテイル業務を営むマネ ーセンターバンク)	Silicon Valley Bancshares ⁴ (地方銀行)
Nonaccrual Loans ①	Nonperforming assets ①、②、③、④	Commercial Cash-Basis Loans ①の一部	Nonaccrual Loans ①、③
Loans accounted for on a nonaccrual basis ⁵	Assets are considered nonperforming when: <ul style="list-style-type: none"> • a default occurs or is expected to occur, • the payment of principal and/or interest or other cash flows is greater than 30 to 90 days past due, depending upon the terms of the contract, or • management has serious doubt as to the collectibility of future cash flows, even if the asset is currently performing.⁸ <p>All of J. P. Morgan's nonperforming loans as of December 31, 1997, were on nonaccrual status.¹⁰</p>	Commercial loans are identified as impaired and placed on a cash (nonaccrual) basis when it is determined that the payment of interest or principal is doubtful of collection, or when interest or principal is past due for 90 days or more, except when the loan is well secured and in the process of collection. ⁶ Consumer Loans on which Accrual of Interest had been Suspended ①の一部 The policy for suspending accruals of interest on consumer loans varies depending on the terms, security and loan loss experience characteristics of each product, and in consideration of write-off criteria in place. ⁹	Loans placed on nonaccrual status were measured by the Company for impairment based on the fair value of the underlying collateral in accordance with SFAS No.114 "Accounting by Creditors for Impairment of a Loan." ⁷
Past Due Loans ②		Accruing Loans 90 or More Days Delinquent ②	Loans past due 90 days or more ②
Accruing loans which are contractually past due 90 days or more as to principal or interest payments ¹¹		無定義	無定義
Restructured Loans ③		Commercial Renegotiated Loans ③	(①に内包)
Loans not included above which are "troubled debt restructurings" as defined in Statement of Financial Accounting Standards No.15 ("FAS15"), Accounting by Debtors and Creditors for Troubled Debt Restructurings ¹²		無定義	
Potential Problem Loans ④		なし なし	Potential problem credits ④
As of the end of the most recent reported period, describe the nature and extent of any loans which are not now disclosed pursuant to Item III. C. 1. above, but where known information about possible credit problems of borrowers (which are not related to transfer risk inherent in cross- border lending activities) causes management to have serious doubts as to the ability of such borrowers to comply with the present loan repayment terms and which may result in disclosure of such loans pursuant to Item III. C. 1. ¹³			In addition to the loans disclosed in the foregoing analysis, Management has identified six loans with principal amounts aggregating approximately \$13.7 million, that, on the basis of information known by Management, were judged to have a higher than normal risk of becoming nonperforming. The Company is not aware of any other loans where known information about possible problems of the borrower casts serious doubts about the ability of the borrower to comply with the loan repayment terms. ¹⁴

（注）ゴシックがSEC基準に対応して各行が開示している項目。この項目につき、各行が定義を開示している場合にこれを引用している。

1. United States Securities and Exchange Commission, "Industry Guides: Statistical Disclosure by Bank Holding Companies"（以下「SEC基準」という。）参照。
2. J. P. Morgan & Co. Incorporated, "1997 Annual report"（以下、「J. P. Morgan 年次報告書」という。）1998年、参照。
3. Citicorp, "Citicorp Annual Report 1997"（以下、「Citicorp 年次報告書」という。）1998年、87ページ参照。
4. Silicon Valley Bancshares, "SILICON VALLEY BANCSHARES 1997 ANNUAL REPORT"（以下、「Silicon Valley 年次報告書」という。）1998年、参照。
5. SEC基準、Ⅲ. C. Risk Elements 1. (a) 参照。
6. Citicorp 年次報告書、62ページ参照。
7. Silicon Valley 年次報告書、33ページ参照。
8. J. P. Morgan 年次報告書、50ページ参照。
9. Citicorp 年次報告書、62ページ参照。
10. J. P. Morgan 年次報告書、69ページ参照。
11. SEC基準、Ⅲ. C. Risk Elements 1. (b) 参照。
12. SEC基準、Ⅲ. C. Risk Elements 1. (c) 参照。
13. SEC基準、Ⅲ. C. Risk Elements 2. 参照。
14. Silicon Valley 年次報告書、31、34ページ参照。

イ. J.P.モルガン（注18）（主としてホール セールを営むマネーセンターバンク）

<SEC基準>

①不良債権

Nonaccrual Loansの定義を自ら定めることを求めているSEC基準を受け、「J.P.モルガンのすべての不良債権は、すべて非発生主義で処理した」（All of J. P. Morgan's nonperforming loans as of December 31, 1997, were on nonaccrual status.）（注19）と説明し、具体的には

A) a default occurs or is expected to occur

B) the payment of principal and/or interest or other cash flows is greater than 30 to 90 days past due, depending upon the terms of the

contract

C) management has serious doubt as to the collectibility of future cash flows, even if the asset is currently performing

の3つを対象として挙げている。このようにNonaccrual Loansの範囲を広く取ることによりSEC基準のPast Due Loans、Restructured Loans、Potential Problem Loansはカテゴリーとして必要がなくなるため、ディスクロージャー誌には、Past Due Loans、Restructured Loans、Potential Problem Loansといった区分の記載はない（注20）。

また、不良債権額は、国内向け・海外向けに分けて表示され、次いでそれぞれについて産業別に記載されている（注21）。

（注18） J. P. Morgan & Co. Incorporated, "1997 Annual report"（以下、「J. P. Morgan 年次報告書」という。）1998年、参照。

（注19） J. P. Morgan 年次報告書、50、69ページ参照。

（注20） SECへ提出された年次報告書（Form10-K、SECが公表）では、Past Due Loans、Restructured Loans、Potential Problem Loansは、いずれも、ゼロと表示されている。

（注21） J. P. Morgan 年次報告書、97ページ参照。JPモルガンにおいては、貸出のみならずデリバティブ取引やコミットメント等から発生している不良債権も開示している（J. P. Morgan 年次報告書、51ページ参照）。

②不良債権の処理

貸出のみならず、未使用コミットメント枠、スタンドバイ信用状や保証、デリバティブズの信用リスクに対する引当金を統合して表示している点、および引当金残高を、個別の相手方にかかる既に発生している悪材料が継続する場合に蒙り得る損失に備える特定引当金分とポートフォリオに固有の（平均的な）損失を対象とする一般引当金分とに分解して開示している点が特色である（注22）。

相手方の区分については、概ねSEC基準が要求している区分に従って記載している（注23）。

期中引当増加額の決定に際し考慮する要素としては、業況・経済状態、当局の規制、過去の実績、国・産業・金融商品・顧客別のリスク集中度、特定および一般引当金に対する予想損失見積額の大きさ、償却額および不良資産の水準等を挙げている（注24）。

<SFAS第114、118号>

SFAS第114、118号に関しては、当年度の引当金額はゼロである旨、および減損貸出金期中平均残高の数値が、Nonperforming assetsの欄に注記されて

いる（注25）。また減損貸出金の利息処理については特に記述はないが、減損貸出金は、Nonperforming assetsに該当するため未収利息不計上として処理されていると解される。

ロ. シティコープ（注26）（グローバルに幅広いリテイル業務を営むマネーセンターバンク）

<SEC基準>

①不良債権

Cash-Basis Loans（Nonaccrual Loans）、Accruing Loans 90 or More Days Delinquent（Past Due Loans）、Renegotiated Loans（Restructured Loans）に区分して開示している（注27）。

Nonaccrual Loansの基準は商業貸出と消費者ローン別に開示されている。まず、商業貸出については、「商業貸出は、保全十分かまたは回収過程にある場合を除き元利何れかの回収が疑わしいか、元利何れかが90日以上延滞している場合には、現金（非発生）主義で処理する」（注28）と範囲を定める一方、消費者ローンについては、「消費者ローン未収利息不計上については、各商品の条件、担保および貸倒実績に応じ、また所定の償却基準を考慮して定められ

（注22） J. P. Morgan 年次報告書、51、99ページ参照。

（注23） J. P. Morgan 年次報告書、98ページ参照。

（注24） J. P. Morgan 年次報告書、51ページ参照。

（注25） J. P. Morgan 年次報告書、69ページ参照。

（注26） Citicorp, "Citicorp Annual Report 1997"（以下、「Citicorp年次報告書」という。）1998年、参照。

（注27） Citicorp 年次報告書、87ページ参照。

（注28） Citicorp 年次報告書、62ページ参照。

ており、一様ではない」（注29）、と記載されている。Potential Problem Loansの定義は示されていない（注30）。

また、不良債権額は、商業ローンと消費者ローンに分けて記載され、商業ローンについて国内外店舗別、有担保・無担保別に分けて記載されている（注31）。

②不良債権の処理

相手方の区分については、商業貸出と消費者ローンに分け、さらに商業貸出については業種別に記した後、各々内外別に記載している。

期中引当金増加額の決定に際し考慮する要素としては、「過去の正味貸倒実績および将来予想される正味貸倒額、景気・経済情勢に加え、ポートフォリオの特性、質および業績、その他の関連指標に関する経営陣の評価」を挙げ、「この評価には、与信を伴うすべての業務が含まれるほか、外貨建て債務の履行に必要な債務者の外貨調達能力の評価も含まれる。」としている（注32）。

<SFAS第114、118号>

SFAS第114、118号に関しては、商業

減損貸出金、その他の減損貸出金、引当金計上減損貸出金、引当金残高、減損貸出金期中平均残高、減損貸出金期中受取利息認識額が、連結財務諸表の注記に記されている。また、減損貸出金の利息の処理につき「減損貸出金は、集合的に減損を評価する小口で同種の貸出金を除き、貸出条件に基づく期限に貸出金全額の回収は困難であると考えている貸出金であり、現金主義で計上している。」と記載している（注33）。

ハ、シリコンバレー・バンクシェア（地方銀行）（注34）

<SEC基準>

①不良債権

Nonaccrual Loans、Loans past due 90 days or more（Past Due Loans）、Potential problem credits（Potential Problem Loans）を開示している（注35）。このうち、Nonaccrual Loansは、SFAS第114号による減損貸出金とされている（SFAS第114号によれば、リストラクチャード貸出金は減損貸出金に含まれるため、Restructured Loansというカテゴリーは不要となったものと解され

（注29）Citicorp年次報告書、62ページ参照。

（注30）これは、CiticorpのNonaccrual Loansの範囲が広いこともあり、Potential Problem Loansの項目自体は不要と考えているためと考えられる。なお、SECへ提出された年次報告書（Form10-K、SECが公表）では、Potential Problem Loansはゼロと表示されている。

（注31）Citicorp年次報告書、87ページ参照。

（注32）Citicorp年次報告書、62～63、88ページ参照。

（注33）Citicorp年次報告書、64ページ参照。

（注34）カリフォルニア州の地銀。Silicon Valley Bancshares, "SILICON VALLEY BANCSHARES 1997 ANNUAL REPORT"（以下、「Silicon Valley年次報告書」という。）1998年、参照。

（注35）Silicon Valley年次報告書、31、33～34ページ参照。なお、SECへ提出された年次報告書（Form10-K、SECが公表）でも、Nonaccrual Loans、Past Due Loans、Potential Problem Loansの残高が存在する。

る)。Past Due Loansは、90日以上延滞債権とされているほか、Potential Problem Loansの定義は、「経営者が承知している情報に基づき不良化するリスクが通常より高いと判断された債権」とし、その情報とは、「約定遵守につき経営者に重大な疑問を抱かせる借手の問題点についての情報である」としている(注36)(SEC基準の定義をほぼそのまま使用したもの)。

また、不良債権額の相手方別等の内訳は、概ねSEC基準に則り記載されている。

②不良債権の処理

相手方の区分については、SEC基準の要求する最低限の区分をほぼそのまま記載している。

期中引当金増加額の決定に際し考慮する要素として、「将来の債務者、経済状況の変化、その他の要素」を挙げている(注37)。

<SFAS第114、118号>

減損貸出金は、Nonaccrual Loansと区別されていない。従って、減損貸出金の記載は特になく、Nonaccrual Loansにかかる引当金の記載がなされている。また、減損貸出金の利息の処理については、特に記述はない(これは、非発生主義による処理を行うことが明らかであるためと解される)。

その他の開示における工夫をみると以下の通り。

二. チェースマンハッタン(注38)

貸出ポートフォリオの全体像を示すために、次のような内容の表を掲載している。

貸出ポートフォリオを消費者向け貸出と商業貸出に大きく区分したうえで、それぞれ相手先の項目や貸出の種類を設け、各項目毎に貸出残高、不良債権残高(未収利息不計上貸出)と同時に期中のネット償却額(償却額－償却資産からの回収額)と、延滞貸出残高を開示している。具体的には、以下の項目を見出しとしてマトリックスを開示している。(注39)

(縦軸の項目)

- ・消費者向け貸出
 - 国内消費者
 - うち抵当権付住宅ローン
 - クレジットカード関連
 - 自動車ファイナンス
 - その他
 - 海外消費者
- ・商業貸出
 - 国内商業
 - うち商工業
 - 商業用不動産
 - 金融機関
 - 海外商業
 - うち商工業
 - 商業用不動産

(注36) Silicon Valley年次報告書、33～34ページ参照。

(注37) Silicon Valley年次報告書、32～33ページ参照。

(注38) The Chase Manhattan Corporation, “1997 ANNUAL REPORT”(以下、「Chase Manhattan年次報告書」という。)、1998年、参照。

(注39) Chase Manhattan年次報告書、30ページ参照。

金融機関および海外政府

- ・担保として取得した資産
- ・不良資産計

（縦軸の項目）

- ・貸出金額
- ・不良債権額（Nonperforming Assets）
- ・ネット償却額（Net Charge-offs）
- ・延滞貸出（Past Due 90 Days and Over and Accruing）

ホ．バンカメリカ（注40）

自己の貸出債権の評価（自己査定）に基づいて special mention、substandard、doubtful（注41）に分類された債権に対する貸倒引当金に関しては、貸倒損失に関する過去のデータに基づいたリスク管理モデル（migration model）と、審査部門の定性的評価を組み合わせることで引当金残高を決定していることを説明したうえで、その水準も開示している。具体的な開示項目は以下の通り。

- ・ special mentionおよび分類債権向け引当金 migration model算出部分 定性的信用リスク評価部分
- ・ その他貸倒引当金

なお、過去のデータに基づく分類債権の貸倒比率も開示しており、1993年以降の同行のデータに基づく貸倒

比率は、special mention：2 %、substandard：6 %、doubtful：34 %である。（注42）

ヘ．シティコープ（91年度）

米銀も90年代初は不良債権問題を抱えていたこともあり、97年度に比べても当時はさらに充実した開示が行われていた面がある。すなわち、シティコープの91年度の年次報告書をみると、不動産関連貸出については、北米を10の地域（ニューヨーク、ニューイングランド、カリフォルニア、南東部等）に分割したうえで、各地域毎に不動産プロジェクトのタイプ別（住宅、ホテル、オフィスビル等）に、総貸出、未収利息不計上貸出、担保流込み不動産の残高を開示するなど詳細なディスクロージャーを行っていた（現在はこうした計数は開示していない）。具体的な開示項目は以下の通り（注43）。

（縦軸の項目）

- ・ ニューヨーク 総貸出 未収利息不計上貸出 担保流込み不動産 ネット償却額
- ・ ニューイングランド

（注40） BankAmerica Corporation, “1997 Annual Report”（以下、「BankAmerica年次報告書」という。）、1998年、参照。

（注41） 例えば、Federal Reserve Board, “Commercial Bank Examination Manual,” 1994, section 2060.1では、以下のよう

に定義づけられている。

special mention（潜在的な問題を有し、経営者が十分留意するに値する債権）

substandard（債権者の現在の資産価値と支払能力、又は担保により十分保全されていない債権。当該債権には明確な問題が存在し、こうした点が改善されない限り一定の損失を蒙る可能性が高い。）

doubtful（substandardに分類された債権のあらゆる問題を有し、かつ現在の状況下では債権額全体を回収することはかなり困難で、まず無理と判断される債権）

（注42） BankAmerica年次報告書、39ページ参照。

（注43） Citicorp, “Citicorp Annual Report 1991”、1992年、42ページ参照。

(内訳項目は、同上)
・カリフォルニア
(内訳項目は、同上)
等

(横軸の項目)

・オフィスビル
・住宅
・個人
・ホテル
・土地
等

Ⅲ. 日本

1. ディスクロージャーの仕組み

イ. 制度の枠組み

銀行法第21条^(注44)は、「銀行は、営業年度ごとに、業務及び財産の状況に関する事項を記載した説明書類を作成して、主要な営業所に備え置き、公衆の縦覧に供するものとする。」と定めている。なお、本年12月1日から施行される改正銀行法では、新たに、①単体および連結ベースの説明書類を併せて備え置きおよび公衆に縦覧する^(注45)、②説明書類で記載する内容は総理府令・大蔵省令で定める^(注46)、③公衆に縦覧しない場合、不備記載の場合、虚偽記載の場合には罰則が課される、④銀行は、預金者その

他の顧客が、銀行や子会社の業務及び財産の状況を知るために参考となるべき事項の開示に努める、ことになる。連結財務諸表を備え置くこと、不開示や虚偽記載が罰則の対象となっている点は、米国と同じになる。また、平成10年度からは連結ベースのディスクロージャーが求められ、この点も米国と同じになる。

銀行法第21条を受け、全国銀行協会連合会は、上記説明資料に記載すべき最低限の内容について、「全銀協統一開示基準」(最新改訂は平成10年5月)^(編注)を作成している。各銀行は、自行のディスクロージャー誌において、「このディスクロージャー資料は、全国銀行協会連合会(全銀協)のディスクロージャーに関する統一開示基準に基づいて作成しておりますが、その基準における各項目は以下のページに掲載しています」と記述し、自行の開示項目と全銀協の開示項目との対応関係を明記している。

なお、銀行法には説明書類の開示期限は明記されていないが、全銀協統一開示基準では、毎年度の決算後6ヶ月以内を目途とするとされている。

(注44) 銀行は、「株式会社の監査等に関する商法の特例に関する法律」第16条第2項で貸借対照表、損益計算書またはその要旨の公告を義務付けられており、銀行法第20条によりその記載方法等は、大蔵省令によることとされている。本年12月1日に施行される改正銀行法により、新たに、銀行が子会社等を有する場合には、総理府令・大蔵省令で定められる記載方法により連結貸借対照表および損益計算書を作成して公告することを義務付けられる(銀行法第20条第2項)。同法は、平成10年4月1日以後開始する事業年度より適用される(但し、中間期については平成11年4月1日以後開始する事業年度)。

(注45) 「総理府令・大蔵省令で定めるものを記載した説明書類を作成し、当該銀行の営業所に備え置き、公衆の縦覧に供しなければならない」(同法第21条第1項)こととなるほか、「銀行が子会社等を有する場合には、当該銀行は、営業年度ごとに、当該銀行及び当該子会社等の業務及び財産の状況に関する事項として総理府令・大蔵省令で定めるものを当該銀行及び当該子会社等につき連結して記載した説明書類を作成し、(前項の単体の説明書類とともに)当該銀行の営業所に備え置き、公衆の縦覧に供しなければならない。」(同法第21条第2項)。

(注46) 現在(10年8月)、説明書類で記載する内容を定める総理府令・大蔵省令は定められていない。

(編注) 概要は日本銀行調査月報98年7月号「経済要録」掲載。

ロ．不良債権のディスクロージャーにかかる
定め

イ．で述べた全銀協統一開示基準では、
銀行単体につき以下のように開示内容が定

められている。破綻先債権および延滞債権
については税法に準拠した定めとなってい
る等各項目にわたりその範囲は一意的に定
まり、個別銀行の判断の余地はあまりない。

項 目	内 容
破綻先債権額	法人税個別通達「金融機関の未収利息の取扱いについて」(注47)の規定により、未収利息を収益不計上とすることが認められる貸出金のうち、経営破綻先に対する債権額を2期以上にわたり開示するとともに、破綻先債権の説明を付記する。
延滞債権額	法人税個別通達「金融機関の未収利息の取扱いについて」の規定により、未収利息を収益不計上とすることが認められる貸出金から、破綻先債権額および金利棚上げにより未収利息を収益不計上とした貸出金を除いた金額を2期以上にわたり開示するとともに、延滞債権の説明を付記する。
3ヵ月以上延滞債権額	元金又は利息の支払が、約定支払日の翌日を起算日として3ヵ月以上延滞している貸出金額（上記「破綻先債権額」、「延滞債権額」を除く）を2期以上にわたり開示するとともに、3ヵ月以上延滞債権の説明を付記する。
貸出条件緩和債権額	経済的困難に陥った債務者の再建・支援を図り、当該債権の回収を促進することなどを目的に、債務者に有利な一定の譲歩を与える約定条件の改定等を行った貸出金額（上記「破綻先債権額」、「延滞債権額」、「3ヵ月以上延滞債権額」を除く）を2期以上にわたり開示するとともに、貸出条件緩和債権の説明を付記する。

ハ．不良債権の処理のディスクロージャーに
かかる定め

上記の全銀協統一開示基準では、以下の
ように開示内容が定められている。

項 目	内 容
貸倒引当金内訳	貸倒引当金残高および内訳を2期以上にわたり開示する。
貸出金償却額	2期以上にわたり開示する。

2．邦銀のディスクロージャーの実際
——97年度年次報告書から

邦銀の不良債権およびその処理にかかる実
際のディスクロージャーをみると（詳細は後
掲別表4）、まず、不良債権、不良債権の処理
いずれについても、原則として各行とも全銀
協統一開示基準で示された定義に従い開示さ
れており、内容上大きな差がない。

(注47) 6ヶ月以上利払いが延滞しているとき、会社更生手続の開始決定があったとき等の場合には、未収利息を益金の額に算入しないことができるとされている。

(別表4)

全銀協統一開示基準 (注1)	東京三菱銀行 (注2)	三和銀行 (注3)	横浜銀行 (注4)
破綻先債権	(同左)	(同左)	(同左)
法人税個別通達「金融機関の未収利息の取扱いについて」の規定により、未収利息を収益不計上とすることが認められる貸出金のうち、経営破綻先に対する債権額を2期以上にわたり開示するとともに、破綻先債権の説明を付記する。(注5)	破綻先債権とは、元本回収が不可能となる蓋然性が高い債権、すなわち近い将来において償却するに至る可能性の高い債権をいい、具体的には銀行業の決算経理基準に基づいて未収利息を収益不計上としている貸出金のうち、下記のいずれかに該当する債務者に対する貸出金が対象となります。 ①会社更生法の規定による更生手続きの開始の申し立てがあった債務者 ②破産法の規定による破産の申し立てがあった債務者 ③和議法の規定による和議の開始の申し立てがあった債務者 ④商法の規定による整理開始の申し立て、または特別清算の開始の申し立てがあった債務者 ⑤手形交換所において取引の停止処分を受けた債務者 ⑥海外の法律により、上記に準ずる法律上の整理手続きの開始の申し立てがあった債務者	税法の規定により未収利息を収益不計上とすることが認められる貸出金（未収利息不計上貸出金）のうち、会社更生法、破産法、和議法、商法上の手続き開始申し立てにより法的倒産となった債務者、または手形交換所の取引停止処分を受けた債務者、あるいは、海外の法律により上記に準ずる法律上の手続き開始申し立てがあった債務者に対する貸出金の元本が該当し、元本の回収が不可能となる蓋然性が高い債権とされています。	貸出先の倒産などにより、返済を受けることが困難となる可能性が高い貸出金のことです。
延滞債権	(同左)	(同左)	(同左)
法人税個別通達「金融機関の未収利息の取扱いについて」の規定により、未収利息を収益不計上とすることが認められる貸出金から、破綻先債権額および金利棚上げにより未収利息を収益不計上とした貸出金を除いた金額を2期以上にわたり開示するとともに、延滞債権の説明を付記する。(注6)	延滞債権とは、将来において償却すべき債権になる可能性のある債権をいい、具体的には、未収利息不計上貸出金のうち、上記の破綻先債権と金利棚上げ債権を控除した貸出金が対象となります。	未収利息不計上貸出金のうち、上記の破綻先債権、および金利棚上げ先に対する貸出金を除いた貸出金の元本が該当し、将来において償却すべき債権に転換する可能性のある債権とされています。	貸出先の業績不振などにより、利息の支払いを6か月以上受けていない貸出金など、利益を生んでいない貸出金のことです。
3ヵ月以上延滞債権	(同左)	(同左)	(同左)
元金又は利息の支払が、約定支払日の翌日を起算日として3ヵ月以上延滞している貸出金額（上記「破綻先債権額」、「延滞債権額」を除く）を2期以上にわたり開示するとともに、3ヵ月以上延滞債権の説明を付記する。(注7)	3ヵ月以上延滞債権とは、元金または利息の支払いが、約定日の翌日から3ヵ月以上延滞している債権のうち、上記の破綻先債権・延滞債権を控除した貸出金が対象となります。	元本または利息の支払いが、約定支払日の翌日を起算日として3ヵ月以上延滞している貸出金の元本が該当します。ただし、破綻先債権・延滞債権に該当するものは除かれます。	期末において、元金または利息の支払が約定支払日の翌日を起算日として3ヵ月以上延滞している貸出金で、「破綻先債権」または「延滞債権」に該当しないものをいいます。

全銀協統一開示基準（注1）	東京三菱銀行（注2）	三和銀行（注3）	横浜銀行（注4）
貸出条件緩和債権	（同左）	（同左）	（同左）
<p>経済的困難に陥った債務者の再建・支援を図り、当該債権の回収を促進することなどを目的に、債務者に有利な一定の譲歩を与える約定条件の改定等を行った貸出金額（上記「破綻先債権額」、「延滞債権額」、「3ヵ月以上延滞債権額」を除く）を2期以上にわたり開示するとともに、貸出条件緩和債権の説明を付記する。（注8）</p>	<p>貸出条件緩和債権とは、経済的困難に陥った債務者の再建・支援を図り、当該債権の回収を促進することなどを目的に、債務者に有利な一定の譲歩を与える約定条件の改定等を行った債権のうち、破綻先債権・延滞債権・3ヵ月以上延滞債権を控除した貸出金対象となります。譲歩した貸出金の具体例には、次のいずれかまたはその組み合わせがありますが、これにかかわらず上記の定義に当てはまる貸出金はすべて開示の対象となります。</p> <p>①金利減免債権 約定条件改定時に、当該債務者と同等な信用リスクをもつ債務者に対して通常適用される新規貸出実行金利より、低い水準まで金利を引き下げた貸出金</p> <p>②金利支払猶予債権 金利の支払いを猶予した貸出金</p> <p>③経営支援先に対する債権 損金経理について税務当局の認定を受けて債権放棄などの支援を実施し、経営支援している先に対する貸出金</p> <p>④元金返済猶予債権 約定条件改定時に、当該債務者と同等な信用リスクをもつ債務者に対して通常適用される新規貸出実行金利より、低い金利水準で元金の支払いを猶予した貸出金</p> <p>⑤一部債権放棄を実施した債権 会社更生法の認可決定などを受けて、元金の一部または利息の放棄を行った貸出金の残債</p> <p>⑥代物弁済を受けた債権 担保権の行使などによって、不動産や売掛金などの資産を受け入れた貸出金の残債</p> <p>⑦債務者の株式を受け入れた債権 債務の返済の手段として、債務者の発行した株式を受け入れた貸出金の残債</p>	<p>経済的困難に陥った債務者の再建・支援を図り、当該債権の回収を促進することなどを目的に、債務者に有利な一定の譲歩を与える約定条件の改定等を行った貸出金の元本が該当します。ただし、破綻先債権・延滞債権または3ヵ月以上延滞債権に該当するものは除かれます。</p>	<p>経済的困難に陥った債務者の再建・支援をはかり、当該債権の回収を促進することなどを目的に、債務者に有利な一定の譲歩（金利の減免、金利の支払猶予、元金の返済猶予、債権放棄、現物贈与、代物弁済の受入など）を実施した貸出金をいいます。</p>

- （注）1. 全国銀行協会連合会、「全銀協統一開示基準」、平成10年5月最終改正、参照。
2. 東京三菱銀行、「1998 東京三菱銀行レポート」、平成10年、6ページ参照。
3. 三和銀行、「三和銀行ディスクロージャー誌 1998」、平成10年、93ページ参照。
4. 横浜銀行、「横浜銀行 1998 ディスクロージャー誌」、平成10年、7ページ参照。
5. 全銀協統一開示基準、項目52参照。
6. 全銀協統一開示基準、項目53参照。
7. 全銀協統一開示基準、項目54参照。
8. 全銀協統一開示基準、項目55参照。

例えば、東京三菱銀行の例をみると次のような項目を5年間にわたり開示している(注48)。なお同行ではSEC基準による開示も行っている(注49)。

- ・貸出金 ①
- ・合計 ②
 - ・破綻先債権
 - ・延滞債権
- ・貸出金に占める比率 (②÷①)
- ・金利減免等債権
- ・経営支援先に対する債権
- ・3ヶ月以上延滞債権
- ・貸出条件緩和債権
- ・リスク管理債権合計
- ・一般貸倒引当金
- ・債権償却特別勘定
- ・特定海外債権引当勘定
- ・貸倒引当金 ③
- ・貸出金に対する比率 (③÷①)

3ヶ月以上延滞債権、貸出条件緩和債権は平成9年度より開示しています。なお、上記の金利減免等債権、経営支援先に対する債権は、平成9年度より貸出条件緩和債権に含まれています。

もっとも、平成9年度版のディスクロージャー誌をみると、従来に比べ開示内容を拡充した銀行もみられる。例えば、アジア危機の発生により同地域向け債権の状況が注目されているが、多くの邦銀が同地域向け債権の残高を国別に開示している。

なかでも、住友銀行は、アジア10カ国向け与信額を債務者(ソブリン、日系、非日

系、金融機関)別に開示しているほか、10カ国向け債権額に対する平均引当率(3.1%)、インドネシア、タイ、韓国の3カ国向け平均引当率(8.2%)および、インドネシア向けの引当率(18.7%)を開示している(注50)。

また、自己査定の結果を開示している先も散見される(注51)。

例えば山口銀行のディスクロージャー誌では、債務者の区分ごとに貸出金債権の残高、担保等による保全額、債権償却特別勘定の引当額等を開示している(注52)。

(縦軸の項目)

- ・貸出金等の残高 (A)
- ・担保等による保全額 (B)
- ・回収が懸念される額 (C=A-B)
- ・債権償却特別勘定 (D)
- ・引当率 (D/C)

(横軸の項目)

- ・破綻懸念先
- ・実質破綻先
- ・破綻先
- ・計

<縦軸・横軸の項目のマトリックスの形式で開示されている>

(注48) 東京三菱銀行、「1998 東京三菱銀行レポート」、平成10年6月、5ページ参照。

(注49) 「未収利息不計上貸出金とは、米国SEC基準では、当行および子会社の貸出金のうち元金または利息の支払いが約定支払日の翌日から6ヶ月(海外の一部子会社では90日)以上延滞し、当該未収利息を「収益不計上」扱いとした貸出金であり、我が国でリスク管理債権として開示している「破綻先債権」および「延滞債権」と基本的にほぼ同内容のものです。」とされている(東京三菱銀行、「1998 東京三菱銀行レポート」、平成10年6月、6ページ参照)。

(注50) 住友銀行、「THE SUMITOMO BANK, LIMITED '98 ディスクロージャー誌」、平成10年、15ページ参照。

(注51) 東京三菱銀行は、今年8月に、「1998 東京三菱銀行レポート 別冊」を発刊した。その中では、同行の開示方針として、不良債権にかかる会計処理を自己査定をベースとした実質基準に変更することが提言されている(「1998 東京三菱銀行レポート 別冊」4ページ参照)。

(注52) 山口銀行、「こんにちはやまぎんです '98 Yamaguchi Bank Report」、平成10年、59ページ参照。

Ⅳ．日米比較

上記Ⅱ．およびⅢ．からみた日米の銀行の不良債権およびその処理にかかるディスクロージャーの相違点は以下の通り整理できる。

イ．日本では、最低限の開示項目である不良債権の定義自体が各行別の判断の余地があまりない形で定められている（例えば破綻先債権および延滞債権は、法人税個別通達が定めている外形基準に準拠した定めとなっている）。このため、開示される情報と各行の自己の貸出債権の評価（自己査定）とは直接は関係がない。

一方、米国では、SEC基準によれば、不良債権の定義自体を開示の対象として求めているため、各行は、会計原則に従い自ら貸出債権を評価（自己査定）し、SEC基準の下で経営判断として決めた不良債権の定義およびそれに該当する債権の額を開示する制度となっている（注53）。

ロ．このため、日本では、外形基準による比較は可能であるものの、外形基準であるがゆえに、不良債権の評価（実態認識）に関する各行の経営判断が読み取りにくい一方、米国では、SEC基準による不良債権の計数について、各行間の比較を外形基準に基づいて単純に行うことはできない。比較を行うには、各行が定めている開示項目の定義自体を理解する必要がある。これは、いわ

ば不良債権の定義レベルまで市場の篩（ふるい）がかかる、逆に言えば、各行が市場の信託を問う形となっている。

ハ．さらに、日本と異なり、米国では、SEC基準による不良債権の開示に加え、会計基準により、特に大口で個別評価を要する貸出金につき回収可能性の観点から当該貸出金の額およびそれに見合う引当金額が一体として開示され、この面から不良債権の認識と処理にかかる一連の経営判断が、市場の篩にかかることとなっている。

ニ．必須開示項目以外のいわば任意開示項目の実態をみると、米銀は開示形式や追加情報が各行の業務内容の特性等を反映し多様なものとなっている。一方、邦銀は近年かなり工夫をこらしてきているが、未だその範囲は限られている（注54）。

ホ．不良債権の処理について、米国では、期末貸倒引当金残高の変化を期中の償却、既往償却分からの回収、新規貸倒引当金積増に貸出先の業種別に分けて表示することとされているほか、貸倒引当金額決定に当たって考慮する要素の開示を求めているが、日本ではそうした増減の要因分解や考慮する要素の開示を求めている。

ヘ．米国では連結ベースで開示がなされているが、日本では銀行単体で開示がなされてきた（注55）。

（注53） 前掲注15参照。

（注54） 現行の日本の基準においては、全銀協統一開示基準は最低限の開示基準とされていることから、統一開示基準の示す項目以外に別の項目として開示範囲を拡大することは可能である。

（注55） 但し、今年度からは改正銀行法の施行に伴い、銀行法第21条第4項に基づき連結ベースの開示が求められる。